



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

東京都立大学

大学院 人間健康科学研究科

看護科学域

博士前期課程・後期課程

学域分野紹介

Introduction to Academic Fields

Department of Nursing Sciences

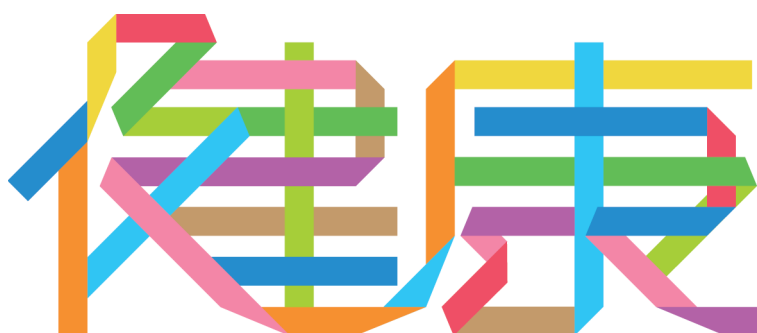
Graduate School of Human Health Sciences,
Tokyo Metropolitan University



<https://www.hs.tmu.ac.jp/graduate/kango>

理 念

理 念



大都市で生活する人々の「健康」をテーマとし、看護学の研究・教育を通じて個人と集団の「健康」に寄与し、生活の質の向上と活力ある長寿社会の実現を目指すことです。

目的・特色

目 的

看護学の探究と人材育成

①看護学の学術的探究、②教育者・研究者の育成、③高度実践看護師の育成の3点を目的とし、看護学の探究と人材育成に取り組む。

特 色

大都市で生活する人々の「健康」

看護倫理に関する高度な専門的知識の教授と判断能力の育成、地域及び医療施設でのあらゆる発達段階にある人々へのケアに関する理論と方法の開発、行政と連携したケアシステムの開発を行う能力の育成を目指しています。

教育課程と専門分野

博士前期課程では、各専門分野において高度な知識と実践能力を養い、修士論文の作成を通して研究能力を育成します。また、一部の分野※では専門看護師（CNS）コースを設け、高度実践看護師の育成を行います。

博士後期課程では、看護科学の発展に寄与する研究者・教育者を育成するとともに、保健医療・福祉分野におけるリーダーとしての能力を養成します。

※小児看護学分野、成人看護学分野

分野	内容
看護倫理・管理学	実践における倫理的諸課題および質の保証を可能にする看護提供システム等について総合的に研究する。
リプロダクティブヘルス看護学	リプロダクティブヘルス看護学領域について理論・方法論を総合的に研究する。
小児看護学 小児看護CNSコースを含む	小児看護学における概念・理論・研究方法を体系的に学び、子どもと家族の未来を支え看護の質を高めるための研究を行う。
成人看護学 慢性疾患看護CNSコースを含む	成人とその家族の健康課題等について理論・方法論を総合的に研究する。
療養生活支援看護学	療養や生活における人々の健康課題について、その支援方法や看護、社会システムについて探求する。
地域精神看護学	地域精神保健問題等について理論・方法論を総合的に研究する。
在宅看護学	在宅看護・地域ケアシステムについて理論・方法論を総合的に研究する。
国際看護／医療人類学	医療人類学的視点を用いながら国内外の看護／医療の対象者を様々な視点から研究する。
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学について理論・方法論を総合的に研究する。
助産学 ※助産師資格取得コースではありません。	助産学領域について理論・方法論を総合的に研究する。

教育課程と専門分野：コースについて

研究コース

大都市で生活する人々及び地域の「健康」をテーマとし幅広い視野を持ち、看護学の研究・教育を通じて個人と集団の「健康」に寄与し、国際的に通用する領域を切り開くことができる研究者・教育者を育成するコースです。

それぞれの専門分野で看護学を探究し、以下の能力を身につけます。

- 大都市に生活する人々の健康問題を論理的に分析でき、倫理的判断や社会的ニーズに応じたケア開発を行う能力
- 研究課題に関連する諸理念、理論、研究方法を学修し、課題解決のプロセス及び看護実践と評価方法を探究し、その成果を研究として論述する能力
- 国際的・学際的な交流をはかるためのコミュニケーション能力

修了要件

人間健康科学専攻看護科学域博士前期課程に**2年以上在籍**し、所定の授業科目について**30単位以上を修得**し、かつ必要な研究指導を受けたうえで修士論文を提出し、学位論文審査および最終試験に合格することが修了要件です。

専門看護師(CNS)コース

高度な知識と技術をもち高度実践専門家としてリーダーシップを発揮し、新たな看護ケア・看護システムを創出することができる高度実践看護師を目指す人材を育成するコースです。小児看護学分野CNSコース、成人看護学分野慢性看護学CNSコースでは、以下の能力を身につけます。

- 専門分野において、個人・家族または集団に対してケアとキュアを統合した高度な看護を実践する能力
- 専門分野において、看護職者に対してケアを向上させるための教育的機能を果たす能力
- 専門分野において、看護職者を含むケア提供者に対してコンサルテーションを行う能力
- 専門分野において、必要なケアが円滑に提供されるために、保健医療福祉に携わる人々とのコーディネーションを行う能力
- 専門看護分野において、専門知識・技術の向上や開発を図るために実践の場における研究活動を行う能力
- 専門看護分野において、倫理的な問題・葛藤について関係者間での倫理調整を行う能力

修了要件

人間健康科学専攻看護科学域博士前期課程に**2年以上在籍**し、所定の授業科目について**46単位以上を修得**し、さらに特定の課題についての修士論文を提出し、学位論文審査および最終試験に合格することが修了要件です。

各分野の紹介

10の専門分野から広がる気づきと学び

博士前期・後期課程を通じて、専門性の高い10の分野で学びながら、各領域の知見を統合し、多様な健康課題に向き合います。実践の中で生まれる気づきを重ねて看護学を探究し、科学的かつ論理的に捉えながら発展させていくプログラムです。

P.07

看護倫理・管理学

Nursing Ethics and Management

P.08

リプロダクティブヘルス看護学

Reproductive Health Nursing

P.09

小児看護学

Child Health Nursing

P.10

成人看護学

Adult Nursing

P.11

療養生活支援看護学

Recuperation Life Support Nursing

P.12

地域精神看護学

Community Mental Health Nursing

P.13

在宅看護学

Home Care Nursing

P.14

国際看護／医療人類学

International Nursing and Medical Anthropology

P.15

公衆衛生看護学

Public Health Nursing

P.16

助産学

Midwifery

看護倫理・管理学

Nursing Ethics and Management

教員

習田 明裕

國江 慶子

前田 耕助

岡本 恵子

加藤 智史

研究テーマ

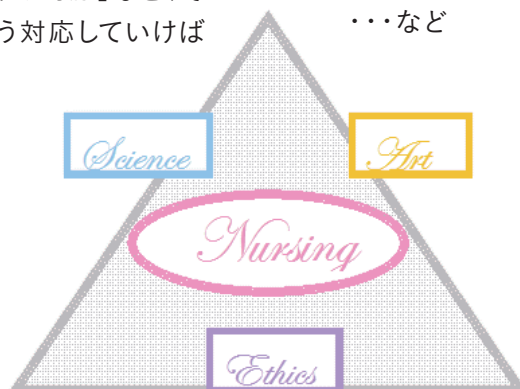
目指すもの

看護倫理学

看護は「人」を対象とする実践の科学であり、人間を尊重すること、つまり人権を尊重することが、看護が看護たり得る基盤となる重要な理念です。看護倫理学研究室では、こうした理念のもと、医療現場が抱える様々な倫理的課題、例えば高度先進医療における「インフォームド Consent」の問題、患者の安全を守るという名目で行われてきた「身体拘束」の問題、療養の環境が施設から在宅へとシフトする中で生じてきた「訪問看護師の葛藤」など、その実態を探るとともに、看護職としてどう対応していけばいいのか探求してきました。

現在は主に、臓器移植、特に健康な人から臓器提供を受ける生体移植や、脳死移植現場における看護職の倫理的葛藤について、看護の視点から研究を進めています。

- 臓器移植看護における看護師の役割・機能に関する研究
- 看護職が直面する倫理的課題の探索およびその対応（移植看護、手術看護、ICU看護、救命救急看護、認知症看護、他）
- 利用者の尊厳や権利を尊重するケアの方法及びシステムの開発
- 卒前・卒後の倫理教育に関する研究
・・・など



看護管理学

看護管理学とは、人々の今と未来の健康と幸せのため、看護を効果的に届ける仕組みと方法を追求する学問です。看護管理学は、実社会で活用され役立つことを目指す実学の側面もあります。そのため、変化する社会や人々のニーズや価値を捉え向き合い続けながら、知を創出・発展することが求められます。看護管理学研究室では、広い視点で現象を捉え、看護管理に関わる理論や法則に向けた知と、看護管理実践の場で有用な知の探求と創出に向け、研究を行います。

- 効果的な組織運営・看護管理実践に関する研究
- 看護組織の事象、組織構成員の組織での体験に関する研究
- 看護管理における外部支援・ネットワークに関する研究
- 職員や組織がもつ力の可視化・拡大に関する研究
- 職員が持つ力を発揮できる職場づくりに関する研究
- その他看護管理に関する研究・・・など

リプロダクティブヘルス看護学

Reproductive Health Nursing

教員

園部 真美

佐藤 千鶴



目指すもの

リプロダクティブヘルス(性と生殖に関する健康)を基盤概念とし、思春期・成熟期・更年期・老年期など各ライフステージにおける女性と家族の健康支援に関する理論・最新の知見・技術を学び、女性の生涯を通じた健康課題に対する看護支援を探究するための研究手法を学びます。また、マタernalステージにある女性と家族のwell-beingや育成期の親子の関係性を評価・促進する包括的なトレーニングを受ける機会を提供します。これらの活動を通じて、母子ケアとウィメンズヘルスの領域で活動する研究者がともに研鑽する場を醸成します。さらに、女性と家族の健康を改善するための支援の向上や政策に還元されるような研究成果の公表を支援します。

博士前期課程

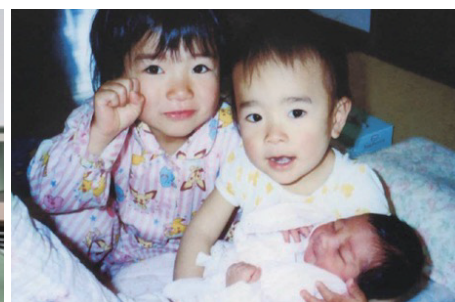
すでに学士課程で学んだ看護師や助産師が理論と実践を統合できる講義やフィールドワークを通じて修士論文を執筆し、知識やエビデンスを生み出し、普及することを奨励しています。

博士後期課程

独立して研究プロジェクトを実施し、国内および国際的なレベルでリプロダクティブヘルスに関連する課題を取り扱う能力を持つ高度な資質を持つ研究者を育成することを目標としています。

研究テーマ

- Antenatal/Postnatal Promotional Guideを用いた地域母子支援活動
- 親子の関係性を重視した観察法Infant CARE-Indexに基づく虐待予防・育児支援システム
- 産後プロモーションガイドを用いた家庭訪問母子支援プログラムの実践と評価
- 健康上の問題をもつ周産期、育児期の女性に対する支援と評価
- 母乳育児支援と健康教育
- 育成期の困難家族の支援
- 児童と家族に対する生と性の教育



小児看護学

Child Health Nursing

教員

山本 美智代

高嶋 希世子

海老名 泉紀



目指すもの

子どもと家族の未来を支え 看護の質を高める

小児看護学領域では子どもと家族への看護実践能力を高めることを目指しています。

博士前期課程

小児看護専門看護師(CNS)コース

小児看護専門看護師として必要な知識・判断力・看護実践能力を高めるコース。

- 小児看護専門看護師による指導のもと、実践に基づく学びができる
- 講義・ゼミ・実習を通して、子どもと家族への高度な看護実践能力を養う
- 病気や障がいをもつ子どもと家族の変化に寄り添う視点を重視

論文コース

小児看護学における概念・理論・研究方法を体系的に学び、研究者としての基盤を培うコース。

- 子どもの発達・健康課題を、家族を含めて多面的に理解
- 子どもの状況を適切にアセスメントするための技術を習得
- 小児看護学の研究動向や課題を整理し、自ら研究に取り組む

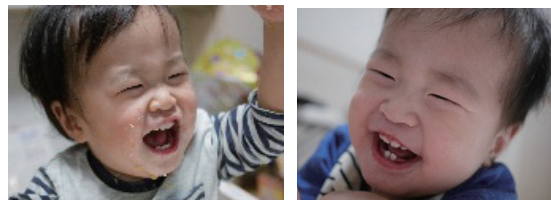
博士後期課程

自立して、より高度な研究能力を身につけるコース。

- 文献レビューやフィールドワークを通じて、小児看護学の重要課題を明確化
- 子どもや家族の日常生活を当事者の視点から深く理解
- 社会的背景・環境を踏まえた研究を行い、看護実践の質向上と学問の発展に貢献

研究テーマ

- 障がいのある子どもの家族への看護に関する研究
- 病気や障がいのある子どものきょうだいの発達に関する研究
- 災害時における在宅障がい児の直面する問題とその防止に関する研究
- 福祉サービスを利用する家族の経験に関する研究



卒業後の進路

- ▶ 療育センター、訪問看護ステーション、大学病院、循環器専門病院など
- ▶ 都内大学の小児看護学領域教員

小児看護学領域HP

<https://ped-ns.fpark.tmu.ac.jp>

※教育・研究活動の詳細は右記二次元コードよりHPをご覧ください。



成人看護学

Adult Nursing

教員

西村 ユミ

福井 里美

三浦 里織

村上 優子

左近 帆乃佳

目指すもの

成人期にある人々やその家族への看護実践を見つめ直し、新たな視点と方法の創出を目指す。

成人看護学領域では、より良い看護実践をめざし、患者や家族が病いとともに生きる中での経験や営みを探究しています。治療や療養の過程で生まれる患者会・家族会での交流や生活の知恵にも着目し、それらを理解して支援に活かすための思想・理論・方法を学びます。

同時に、看護師の側の経験や実践にも目を向け、看護の「実践知」について検討します。授業や演習、文献レビュー、調査を通して、自身の看護観や実践を見直し、新たな視点や技術の創出と、その継承方法について探究します。

これらの学びを基に、各自が研究課題に取り組み、看護現場での問題解決能力や教育・指導力の向上を図るとともに、成人看護学における新たな知の創出を目指します。

博士前期課程

成人看護学分野慢性看護学CNSコース

2024年度より開設した慢性疾患看護CNSを取得できるコースです。受講生が専門とする、がん、心疾患、脳卒中、生活習慣病、難病、外傷による後遺症など多様な疾患について、発症期から回復期、増悪期、維持期、終末期に至る長い療養過程を見据えたケアの実践力の修得を目指します。

各疾患に対しては、症状緩和ケア、リハビリテーション、サバイバーシップの三つを柱とし、専門性の向上を図ります。討議を重ねながら、知識、問題解決力、コミュニケーション力を養い、課題研究に取り組みます。

教員・大学院生 研究テーマ

- 延性意識障害患者への看護実践の現象学的研究
- 急性期病棟において意思疎通困難な患者に関わる看護師の実践の成り立ち
- 急性期病院の協働実践の現象学的研究
- 脊髄損傷患者への現象学的研究
- 救命救急センターの部署を超えて重なり合う看護師たちの実践
- 手術中における手術室看護師の実践の成り立ち
- 膠原病患者と関わる看護師の経験
- 妊娠・出産する女性と助産師との関係の成り立ち
- がんサバイバーへの心理社会的支援の実践研究
- 外来がん薬物療法を選択した高齢者の生活経験
- がん終末期看護のやりがい感
- 脳卒中後の精神不安定な患者への看護実践



成人看護学領域HP

<https://tmunphilosophy.wixsite.com/since2013>


療養生活支援看護学

Recuperation Life Support Nursing

教員

小野 若菜子

奥村 朱美

周 璐

目指すもの

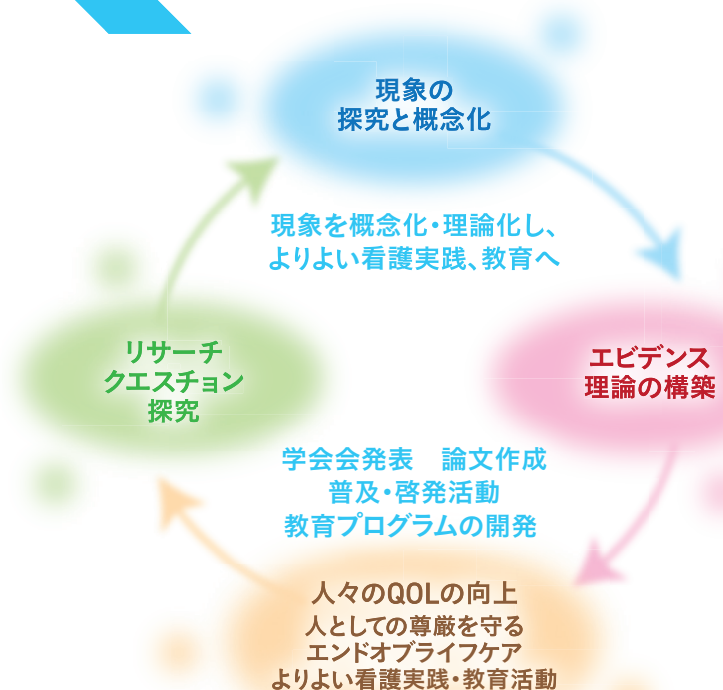
療養生活支援看護学では、療養や生活における人々の健康課題について、その人の暮らしや歴史、健康と疾病、療養と介護、人生の終焉と看取りの観点を踏まえ、その支援方法や看護、社会システムについて探求します。

高齢社会において、「活力ある長寿社会」を実現するために、その人の健康と生活を支え、看護を発展させる新たな「知」の創造をめざす研究者・教育者の育成に取り組みます。

大学院では、国内外の文献を精読し、プレゼンテーションや意見交換を通して、課題や現状、エビデンスの分析をします。そして、自らの研究テーマの焦点を深め、調査を進めます。

これらの研究活動を通して、療養生活支援看護への貢献を目指します。

大学院での研究



教員の活動

研究活動

- 看護職が行うグリーフケア、エンドオブライフケア
- 在宅終末期ケアにおける看護職・介護職・介護支援専門員の連携
- 死別を支える地域コミュニティの育成、市民サポート
- 地域包括支援センターにおける死別サポート
- 地域包括支援センターにおける倫理的課題と倫理的環境
- 災害時の公衆衛生看護、健康課題としての放射線防護
- 認知症高齢者への睡眠ケア

教育活動

- 学部：高齢者看護学、災害看護学、エンドオブライフケア論、地域創生フィールドワーク演習等
- 大学院：療養生活支援看護学

地域活動・社会活動

- グリーフカフェや暮らしの保健室等の地域活動
- 日本在宅看護学会、日本エンドオブライフケア学会、日本在宅ケア学会等の活動、学術集会の企画・運営等の学会活動
- グリーフケア、エンドオブライフケアに関する市民向け講座、専門職向け講座

地域精神看護学

Community Mental Health Nursing

教員

山下 真裕子

神澤 尚利

川添 美花

目指すもの

地域生活を支える精神保健の探究

精神看護学は、精神障害の有無にかかわらず、人々が地域社会の中でその人らしく生活することを支える看護学です。

本分野では、精神障がいをもつ方々とその家族、関係者、支援に携わる専門職を対象に、地域生活を基盤とした精神保健・精神看護を探究します。

さらに、実践の深化とともに、その知見を理論化・体系化し、精神看護学の発展に寄与する研究の推進を目指します。

研究領域

① 地域生活とリカバリー

- 精神障害をもつ人の地域生活
- セルフマネジメント
- 社会的役割とリカバリー

② 就労と社会参加

- 精神障害者の就労継続
- 雇用システム
- 社会参加

③ 家族等への支援

- 精神障害を抱える親をもつ子どもの経験
- きょうだいの経験

④ 精神保健の予防と支援

- 認知行動療法(CBT)
- ポジティブ心理学
- 自殺予防

⑤ 精神看護におけるシミュレーション教育

- 意思決定支援
- 臨床判断能力の育成

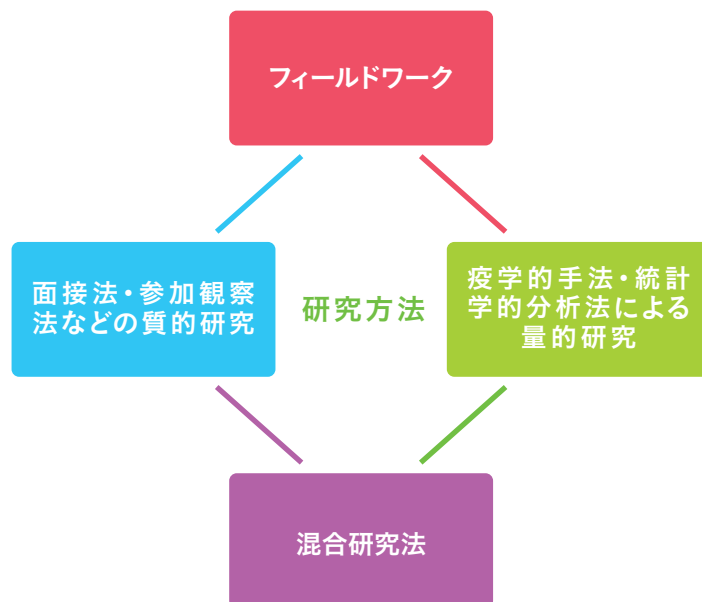
研究テーマ

博士後期課程

- スピリチュアルケアの臨床判断モデルの構築
- 病院・地域看護職間の連携に関する研究
- 精神障害者の就労定着に関する研究
- 長期入院患者のリカバリーを促進する看護実践

博士前期課程

- 精神疾患を持つ人の交際相手の交際期間の経験
- 外国にルーツを持つ人への訪問看護師のケア内容とその工夫
- 精神科外来看護師による精神障害者への治療上の選択に関する意思決定支援の実践



教員情報

山下 真裕子



神澤 尚利



川添 美花



地域精神看護学領域HP

<https://seishinlab.fpark.tmu.ac.jp>

※当方のゼミは希望があれば院生以外でも参加可能です。
詳細は右記二次元コードよりHPをご覧ください。



在宅看護学

Home Care Nursing

教員

岡本 有子

研究・論文テーマ

目指すもの

在宅看護学領域では、「退院支援」「訪問看護」「外来看護」を3つの柱に(下図)、地域ケアシステム・在宅看護分野の課題に関連する諸理念、理論、研究方法を学習し、課題解決のプロセス及び実践と評価方法についても探求し、その成果を研究としてまとめる能力を育成します。

博士前期課程

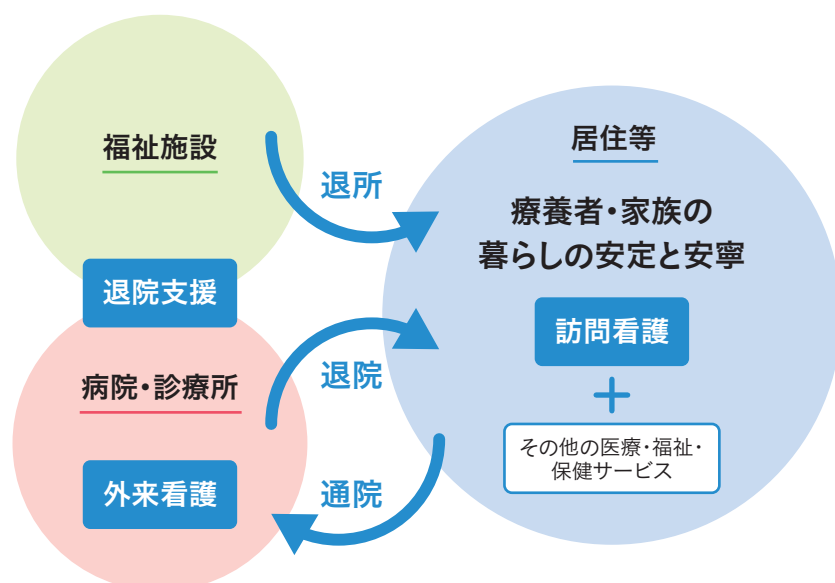
関心ある現象について概念(変数)を特定し、データ収集の方法、分析方法の基礎を学びます。次に特別研究で取り組むテーマについて国内外の研究の動向、理論および主要概念、研究方法について文献レビュー、実地踏査を行う演習形式を組んでいます。

教員の研究テーマ

- がん末期患者と家族への専門看護師主導型地域包括ケアプログラムの臨床的有用性の検証
- 看護学生のための訪問看護シミュレーション教育:教材の開発

近年の修了生の論文テーマ

- 医療的ケア児の母親の在宅移行に向けた退院支援を受ける経験 -在宅移行後の母親へのインタビューから-
- 軽症血友病患者の病気をもって生きる思い
- 外来化学療法を受ける再発がん患者に対する訪問看護師と病院看護師の連携の実践と在宅療養や訪問看護への影響
- 症状排泄高齢者の排便援助の実態及び継続可能な排便習慣の判断に至る関連要因-在宅で計画的に浣腸や摘便を実施している事例と実施していない事例との比較-
- 病院勤務経験のある新任訪問看護師の戸惑い
- 在宅ALS療養者の人工呼吸器装着に関する意思決定を支援する訪問看護師への管理者の関わり



継続的・効果的な在宅看護と地域連携

国際看護／医療人類学

International Nursing and Medical Anthropology

教員

野村 亜由美



目指すもの

- 1 看護系大学では、学部的一般教養の選択科目として「医療人類学」を開講しているところがありますが、大学院教育で看護教員が「医療人類学」を教えるのは本学が初めてだと思います。
- 2 「医療人類学」は対象となる国や人びとの「人間」「健康」「病気」「医療」について多角的に学ぶ学問領域であるため、「国際看護」と親和性の強い基礎看護系の領域です。自分とは異なる文化の人たちの病気観や治療行動が、その人たちが暮らす文化的/社会的背景とどのように結びついているのかを理解し、看護/医療の対象となる人びとが抱えている問題はなにか？健康状態が改善しないのはなぜか？健康状態や生活がより良く改善するにはどのような関わりが必要か？なにが人びとの間で問題になっているのか？などについて考えます。
- 3 「医療人類学」を学びたいと思う人は、国際協力で海外から帰国したボランティア経験者や、海外の医療に関心がある看護師が多いと思います。学部で「文化人類学」の基礎知識を学んでいないので、「医療人類学」を学ぶことは難しいと思うかも知れませんが、医療人類学も看護学も「人間とはなにか？」について探求する学問という意味では共通しています。

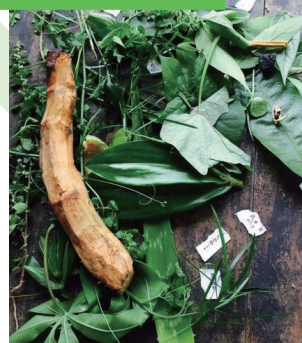
教育内容

本コースでは、医療人類学の基礎知識をまなびながら、日本国内のみならず、途上国における医療問題や健康問題を、フィールドワークを通して現地の人とともに考え、彼らの健康状態の改善に向けた取り組みについて考察し、将来的にグローバルな場で活躍できる専門職者の育成を目指します。

研究テーマ

- 私の研究テーマは「老い」と「認知症」です。どちらもむかしは病気ではなく、自然なものとして考えられていました。どの世界も同じでしょうか？「老い」に対する考え方も違いますし、「認知症」という概念のない国もあります。人間におこるさまざまな事象が文化によって異なるとするならば、それはなぜなのか？ということに関心をもっています。

Herbal Medicine



Discussion/Interview



公衆衛生看護学

Public Health Nursing

教員

斉藤 恵美子

呉 珠響

縞谷 絵理

目指すもの

保健師の実践に関連する領域のため、大学院では、保健所等の行政機関や企業、地域包括支援センター、病院などで様々な実践経験を積んだ学生や、現場の保健師も社会人学生として学んでいます。探求したいテーマをもって、日頃の実践を向上しようと考えている看護職の方々の、主体的な研究活動を支援したいと考えています。

分野の教育内容

公衆衛生看護学は、個人や家族、地域全体の健康と生活の質の向上に寄与する実践に役立つ科学です。地域で生活している人々とその家族や、様々なつながりをもった人々の集団を対象としています。

博士前期課程での目標

- 公衆衛生看護学の理論、実践、研究による最新の知見を評価する
- 公衆衛生看護学の知見としての研究を実施する。
- 多様で多文化的な集団を対象として、根拠に基づく公衆衛生看護実践の適用を評価する。
- 研究に関する倫理的課題と責務について、明確に述べる。
- 健康を促進するためのリーダーシップの方法を身につける。

博士後期課程での目標

公衆衛生看護学の実践と教育の科学的根拠について追求し、前進させる能力を養う。

研究テーマ

修士論文

- 要保護児童対策地域協議会に登録された乳児の虐待予防のための支援過程での保健師の状況判断—質的記述的研究
- 幼児の母親がインターネット上の健康情報を活用するためのヘルスリテラシーの特徴:eヘルスリテラシー得点別の比較
- 新型コロナウイルス感染拡大に伴う子育て世代包括支援センター看護職の個別支援の困難さの特徴
- 陸上自衛官の職場環境、健康意識と社会的ニコチン依存の関連
- 身体的障害等のある人を対象としたスポーツ教室参加者の参加前後の自己効力感の変化

博士論文

- 産業看護職の事業策定の経験の有無と関連する要因:職場におけるメンタルヘルス対策の一次予防に焦点をあてて
- 多様なエスニックの視点からの高齢者の保健サービス利用に関連する要因:中国帰国者、定住コリアンを対象として
- 産科医療機関における虐待発生予防にむけた看護実践自己評価尺度の開発

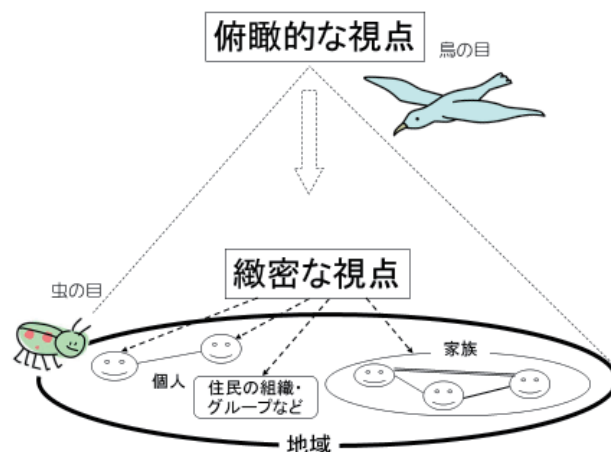


図 地域をみる:鳥の目と虫の目

斉藤恵美子、(2014)、第1章公衆衛生看護実践と技術の特性、佐伯和子(責任編集)、公衆衛生看護実践(pp. 40)、医歯薬出版株式会社。



公衆衛生看護学分野HP

<https://phn.fpark.tmu.ac.jp>

教育・研究活動の詳細は左記二次元コードよりHPをご覧ください。

助産学

Midwifery

教員

安達 久美子

菱沼 由梨

巖 千晶



●本コースは助産学の研究コースです(助産師の資格取得のためのコースではありません)

目指すもの

本コースは、周産期および女性の生涯全般にわたる健康課題に取り組む研究コースです。学生は助産師としての臨床経験から生まれた問いを起点に、エビデンスに基づく研究を推進します。女性とその家族に対してより良い助産ケアが提供できることを目標とし、国際的な視野をもって探究を深めています。

研究テーマ

●周産期ケアの研究

妊娠・分娩・産褥期における助産実践の質向上に向けた研究。母子の安全と満足度を両立するケアモデルの探求。

●家族支援・育児支援

産後うつ・育児不安・父親の育児参加など、女性を取り巻く家族全体の健康と幸福を視野に入れた研究。

●女性の生涯を通じた健康

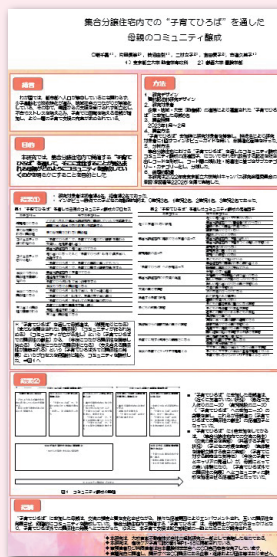
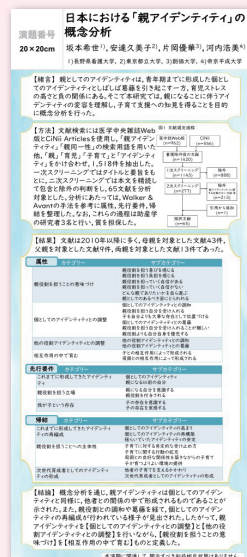
思春期から更年期・老年期まで、ライフステージ全般にわたる女性特有の健康課題に多角的にアプローチ。

●国際比較・グローバル研究

海外研究者・助産師との共同研究を通じて、各国の助産ケアの実態や文化的背景の比較研究を実施。

研究成果発表

- オンラインを活用した夫婦の育児の協働支援プログラムの開発及び効果の検証 産後2カ月の初産婦夫婦を対象とした無作為化比較試験(母性衛生,2026)
- 「gender sensitivity」の概念分析(日本保健科学学会誌,2025)
- 妊婦の理想とする性行動と実際に経験した性行動の比較(母性衛生, 2023)
- 育児期の親のエンパワメント尺度の開発(日本看護学会誌,2023)



修了生の活躍

修了生は、看護系大学の教員として、病院の助産師の管理職や助産師として活躍しています。

指導教員一覧

●大学院指導教員及び分野

看護科学域 博士前期課程			
分野	指導教員		メールアドレス
看護倫理・管理学	教授	習田 明裕	shuda@tmu.ac.jp
	准教授	國江 慶子	keikokunie@tmu.ac.jp
	准教授	前田 耕助	k-maeda@tmu.ac.jp
リプロダクティブヘルス看護学	准教授	園部 真美	sonobe@tmu.ac.jp
小児看護学 (小児看護学分野CNSコースを含む)	教授	山本 美智代	ymichiyo@tmu.ac.jp
成人看護学 (成人看護学分野慢性看護学CNSコースを含む)	教授	西村 ユミ	yumin@tmu.ac.jp
	教授	福井 里美	satomif@tmu.ac.jp
療養生活支援看護学	教授	小野 若菜子	wakaono-96@tmu.ac.jp
地域精神看護学	教授	山下 真裕子	ymayuko@tmu.ac.jp
在宅看護学	准教授	岡本 有子	yokamoto-hs@tmu.ac.jp
国際看護／医療人類学	准教授	野村 亜由美	ayumin@tmu.ac.jp
公衆衛生看護学	教授	斉藤 恵美子	saito@tmu.ac.jp
助産学 (助産師資格取得のコースではありません)	教授	安達 久美子	mwadachi@tmu.ac.jp
	准教授	菱沼 由梨	yuri_hs@tmu.ac.jp

看護科学域 博士後期課程			
分野	指導教員		メールアドレス
看護倫理・管理学	教授	習田 明裕	shuda@tmu.ac.jp
小児看護学	教授	山本 美智代	ymichiyo@tmu.ac.jp
成人看護学	教授	西村 ユミ	yumin@tmu.ac.jp
	教授	福井 里美	satomif@tmu.ac.jp
療養生活支援看護学	教授	小野 若菜子	wakaono-96@tmu.ac.jp
地域精神看護学	教授	山下 真裕子	ymayuko@tmu.ac.jp
公衆衛生看護学	教授	斉藤 恵美子	saito@tmu.ac.jp
助産学	教授	安達 久美子	mwadachi@tmu.ac.jp
	准教授	菱沼 由梨	yuri_hs@tmu.ac.jp



荒川キャンパス

〒116-8551 東京都荒川区東尾久7-2-10
TEL 03-3819-1211(代表)

東京都立大 看護科学域



<https://www.hs.tmu.ac.jp/graduate/kango>

